

# 謳う丘制圧参考資料

製作者 氷水  
Version  $\beta$

# 目次

## 概要

---

この資料は「謳う丘制圧」の参考資料です。  
アルトネリコシリーズのネタバレを含んでいます。

## 参考資料

---

アルトネリコ1～3 ゲーム

アルノサーージュ ゲーム

アルトネリコ1～3 設定資料集

トウコウスフィア

編纂室

SurgeConcerto WorldSettingDocuments

### ■シナリオ作成で主に使用した資料

アルトネリコ1 設定資料集

### ■世界観を広げる為に使用

アルノサーージュ ゲーム

SurgeConcerto WorldSettingDocuments

## 簡易年表

---

シナリオ舞台である、ソル・シエールのみ記載とします。

AD3040 年

グラスノインフェリア発生

AD3176 年

異形の者があらわれ、人々を襲う

AD3202 年

シュレリア、レーヴァテイル・ベータについて発表

AD3205 年

第二紀初の  $\beta$  純血種誕生

AD3220 年

本シナリオ「謳う丘制圧」の使用時代

AD3341 年

人間・レーヴァテイル比率が 30%を越える

AD3390 年

ミュール(ジャクリ)誕生

AD3420 年

レーヴァテイルコントロールの提唱

ミュールの反乱

AD3421 年

初代星詠「リユーン」が EXEC\_CHRONICLE=KEY/. を謳う

## 簡易年表 & 時代解説

---

■AD3040年: グラスノインフェリア発生  
第一紀の終わりです。  
これ以降の時代が第二紀となります。

■AD3176年: 異形の者があらわれ、人々を襲う  
謳う丘(仮名)より、モンスターが突如現れます。  
当時、レーヴァテイルは少なく、モンスターに対して防衛すらまま  
ならない状況です。  
※AD3033年～AD3040年製のβ純血種又は、極少数の第三  
世代しか存在しない為、レーヴァテイルが少ないと表現しており  
ます。

■AD3202年: シュレリア、レーヴァテイル・ベータについて発表  
この年に初めて、一般人にレーヴァテイルと言う存在が公表され  
ます。  
AD3202年にはβ純血種は存在しておりません。  
※β純血種の寿命は150年であり、ソル・シエールのβ純血  
種の最終製造年はAD3040年である為。

■AD3205年: 第二紀初のβ純血種誕生  
この時からβ純血種が創られるようになります。

■AD3217年  
第二紀初のβ純血種の標準的なレーヴァテイル覚醒時期です。

■AD3220年: 本シナリオ「謳う丘制圧」の使用時代  
このシナリオの内容です。

■AD3420 年:ミュールの反乱  
アルトネリコ2のジャクリコスモスフィアです。

■AD3421 年:初代星詠「リューン」が  
EXEC\_CHRONICLE=KEY/. を謳う  
彌紗のクローンマスターである「リューン」が星詠となり、ミュール  
を封印する為、クレセントクロニクルで  
EXEC\_CHRONICLE=KEY/. を謳います。



## シナリオ時代背景

---

人々は謳う丘で創られたモンスターに苦しめられていた。

シュレリアはこの事態を重く見ていた。

そして  $\beta$  レーヴァテイルについて人々に一般公表、製造を開始する。

第二紀最初の  $\beta$  レーヴァテイルが製造され15年が経過した。

幾度となく行われたモンスター討伐は今回で最後となる。

## キャラクター作成の制限について詳しく

---

### ■A.T.D. $\beta$ レーヴァテイル( $\beta$ 純血種)

大前提として  $\beta$  純血種は 150 年生きることができます。

しかし、今回のシナリオの時代は AD3220 年となっております。

設定資料に記載されている通り、第二紀初の  $\beta$  純血種は AD3205 年、第一紀の終わりは AD3040 年です。

第一紀の最終製造では寿命に到達してしまいます。

第二紀製造なら問題ないように感じますが、レーヴァテイルの覚醒時期が問題点です。

基本的にダイブが安全に行える 12 歳を基本とすると最速 AD3217 年となります。

そのため、12 歳から 15 歳のレーヴァテイル作成と言う年齢制限を設けております。

※詩魔法サーバーは異なるが、クローシェは 3 歳でレベル 7 でレーヴァテイルとして覚醒している為、必ずしも従うべきではないのかも知れません。

### ■第三世代 A.T.D.レーヴァテイル

AD3220 年では、第三世代と言う言葉が存在しません。

私と一部プレイヤー様との考察の結果、第三世代も少なく、 $\beta$  純血種が生産されて間もない為、タウリスタ病と言う言葉は存在しないと思われれます。

タウリスタ病とは先天性の難病と言われ、体の一部にタウが出るが発病と判断されてました。

このタウはインストールポイントです。

AD3220 年は延命剤(ダイキリティ)が発見されていない為、**寿命が20歳前後が限界**です。

第三世代は原因不明の不治の病で倒れると言う結果に落ち着きました。

延命剤の発見された年は第三紀開始から数百年後です。  
“アルトネリコ1設定資料集93ページ参照”

## Q&A

---

■詩魔法を使用する為「ヒュムノスワード」ではなく、「ヒュムノスエクストラクト」が良いですか？

このシナリオは第二紀初頭で人々に  $\beta$  レーヴァテイルが公表されてから長い時間が経過しておりません。

その為、ダイブマシンは一般化されて無いと思われるのと、ヒュムネクリスタルを制作する技術が残ってる可能性がある為、詩魔法は「ヒュムノスワード」よりは「ヒュムノスエクストラクト」のほうが正しいと思います。

■軍隊は存在しますか？

私の個人的解釈ですが、ソル・シエールはグラスノインフェリアを引き起こしました。

この後、最高評議会により平和宣言しています。

その為、軍隊は解散してると考えられます。

なお、今回のシナリオは人間、テル族、レーヴァテイルの全ての種族から有志を募り、謳う丘を制圧する形になると思います。

■ジェネリック  $\beta$  は可能ですか？

第一紀終焉や第二紀には作られていたと記述がある為、可能です。

“トウコウスフィア「テクニカルサービスセンター」75回目参照”

■ 端末魔法を使用して良いですか？

演出としての使用は認めます。

端末魔法自体はこの時代に存在しています。

ヒュムノススペルの高度版であり、端末でコマンドを入力する事により結果を返すというだけのものです。

第二紀以降でも端末を使っていましたが、ミュールの反乱の際にシュレリアが使えなくなりました。

※アルシエル・テクニカルデータ編纂室第10回、一部引用

人々は端末で詩を謳うことで塔と交信し、具現化した魔力を享受者できた。

“アルトネリコ設定資料集65ページ「グラスノとパラメノ」参照”